



発掘された 松本2025



松本市遺跡発掘報告会

令和8年 2/7 土

13:00 ~ 16:00

M ウイング 6 階ホール



YouTubeでのオンライン配信

- 報告会の内容を編集した動画を3月頃に配信いたします。
- レジュメのデータは、松本市HPよりダウンロードいただけます(2月上旬頃)。

YouTube
松本市公式チャンネル



レジュメダウンロード



Facebook



Instagram



SNS、ホームページで最新情報をチェック!!

速報展のご案内

観覧
無料

2/7(土) ▶▶ 3/30(月) 速報展

会場 | 松本市立考古博物館 休館日 | 2月 平日 3月 火曜日
開館時間 | 9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

報告会で登場した
遺物を見に行こう!



- 1 | 平田北遺跡出土 灰釉陶器碗 2 | 出川南遺跡出土 土師器甕 3 | 井川城址出土 木片 4 | 出川南遺跡出土 須恵器平瓶 5 | 史跡松本城南外堀跡出土 軒丸瓦
6 | 出川南遺跡出土 提碇 7 | 平田北遺跡出土 土師器ミニチュア土器 8 | 井川城址出土 石鉢 9 | 出川南遺跡出土 須恵器杯

発掘された松本 2025

～松本市遺跡発掘報告会～

次 第

令和 8 年 2 月 7 日（土）

司会 文化財課長 田多井 用章

13：00 開会

挨拶 文化観光部 次長 竹内 靖長

13：05 趣旨説明・令和 7 年発掘調査の概要
(10 分) 文化財課 係長 櫻井 了

13：15 報告① 平田北遺跡 第 8 次調査
(30 分) 文化財課 原田 健司

13：45 報告② 出川南遺跡 第 30 次調査
(30 分) 文化財課 足立 とも与

14：15 休憩 (10 分)

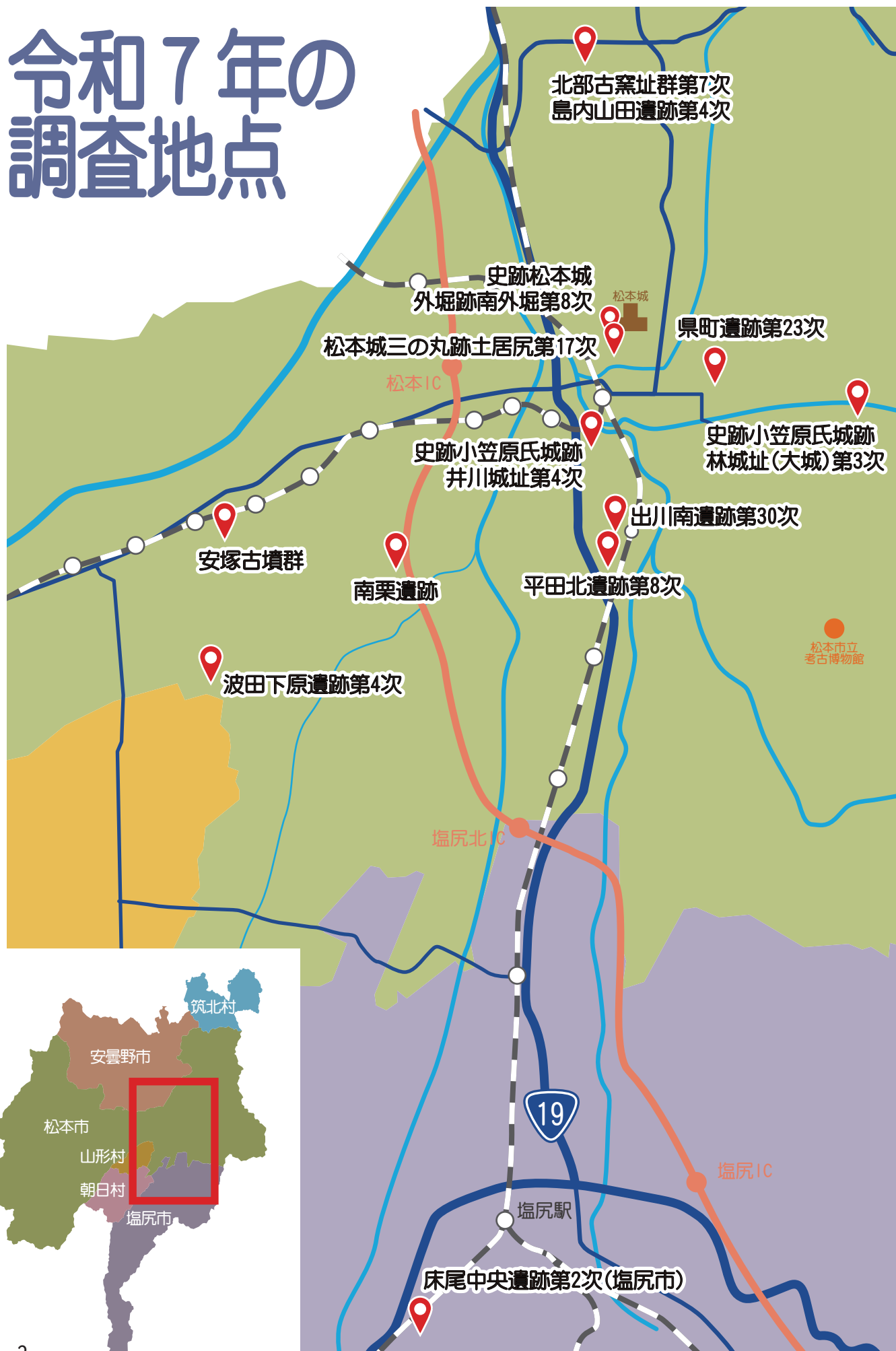
14：25 報告③ 史跡松本城 外堀跡南外堀 第 8 次調査
(30 分) 文化財課 早田 拓未

14：55 報告④ 床尾中央遺跡 第 2 次発掘調査（塩尻市）
(30 分) 塩尻市立平出博物館 館長 小松 学

15：25 質問 (10 分)

15：35 閉会

令和7年の 調査地点



令和7年（2025年）埋蔵文化財発掘調査・整理作業・報告書刊行一覧

No.	遺跡名・調査名	調査期間	調査面積	調査原因	時代	特徴・備考
1	<small>みなみくり</small> 南栗遺跡 (長野県埋蔵文化財センター)	R7.4～R7.12	5,200㎡	松本波田道路改築事業(松本JCT)	古代	集落跡
2	<small>やすづか</small> 安塚古墳群 (長野県埋蔵文化財センター)	R7.4～R7.12	4,900㎡	松本波田道路改築事業	古墳時代	古墳
3	松本城外堀跡 南外堀第8次 (史跡松本城)	R7.5～R7.12	665㎡	史跡松本城南・西外堀復元事業	中世～近世	城館跡 (外堀)
4	<small>いかわ じょうし</small> 井川城址第4次 (史跡小笠原氏城跡)	R7.6～R7.11	258㎡	小笠原氏城館群史跡整備事業	中世	城館跡
5	<small>はやしじょうし おおじょう</small> 林城址(大城)第3次 (史跡小笠原氏城跡)	R7.11～調査中	50㎡	小笠原氏城館群史跡整備事業	中世	城館跡
6	<small>あがたまち</small> 県町遺跡第23次	R7.4～R7.5	64㎡	防火水槽設置	弥生時代・古代	土坑
7	波田下原遺跡第4次	R7.7～調査中	566㎡	新松本工業団地拡張事業	縄文	大規模試掘
8	<small>いでがわ みなみ</small> 出川南遺跡第30次	R7.8～調査中	1,079㎡	(仮称)松本市役所保健所庁舎建設	古墳時代～平安	集落跡
9	平田北遺跡第8次	R7.10～調査中	490㎡	民間開発	古代～中世	集落跡
10	松本城三の丸跡土居尻第17次	R7.10～R7.11	430㎡	民間開発	近世	武家屋敷
11	島内山田遺跡第4次 <small>ほくぶ こやうしぐん</small> 北部古窯址群第7次	R6.6～R7.7	2,750㎡	島内山田クラインガルテン整備事業	縄文時代・古代	6年度から継続
12	市内遺跡試掘・確認調査	通年	601㎡	各種民間開発 (詳細別表)		試掘
13	<small>あがたまち</small> 県町遺跡第16次 (整理作業、報告書刊行)	(R8.3刊行)	—	保育園建設事業	弥生時代・古代	
14	弘法山古墳第2～4次 (史跡弘法山古墳) (整理作業、報告書刊行)	(R8.3刊行)	—	史跡弘法山古墳再整備事業	古墳時代	
15	松本城三の丸跡土居尻第9次 (整理作業)		—	史跡松本城南・西外堀整備事業	中世・近世	武家屋敷
16	松本城三の丸跡土居尻第13次 (整理作業)		—	史跡松本城南・西外堀整備事業	中世・近世	武家屋敷
17	<small>あがたまち</small> 県町遺跡第17次 (整理作業)		—	運動広場建設	弥生時代・古代	集落跡
18	松本城外堀跡 南・西外堀 (史跡松本城) (整理作業)		—	史跡松本城南・西外堀復元事業	中世～近世	城館跡

※松本市内の発掘調査（松本市及び長野県埋蔵文化財センター実施）

※3～5の()内は国指定史跡名称

※令和7年1月～3月に完了した調査で昨年掲載分は省略

開発工事等による市内遺跡確認調査一覧（令和7年）

No.	事業者	所在地	原因事業	調査面積(m ²)	遺跡との関係		遺構等の有無	見つかった遺構など	備考	期間
1	民間	筑摩4	工場	19.54	筑摩南川原遺跡	該当	なし			1月8日
2	民間	岡田松岡	宅地造成	7.50	岡田松岡遺跡	該当	なし			1月15・16日
3	民間	桐3	宅地造成	8.20	トウコン原遺跡	該当	あり	須恵器片土師器片	保存可能	1月17-21日
4	民間	沢村3	宅地造成	28.20	旧射的場西遺跡	該当	あり	推定住居跡	保存可能	1月23-27日
5	民間	沢村2	宅地造成	44.52	旧射的場西遺跡、元原遺跡	近接	あり	埴輪片	攪乱中土器、遺跡外	2月12・14日
6	民間	旭2	集合住宅	15.00	松本城下町跡	該当	なし		天白町	2月25-27日
7	民間	波田	宅地造成等	36.00	(遺跡未確認地域)		なし			3月13-14日
8	民間	寿北7	集合住宅	5.25	向原遺跡	該当	なし			3月19日
9	民間	沢村1	個人住宅	7.20	沢村遺跡	該当	なし			4月10日
10	民間	里山辺	集合住宅	21.00	里山辺下原遺跡	該当	なし			4月14・15日
11	民間	笹賀	建売住宅	8.00	神戸遺跡	該当	なし			4月21・22日
12	民間	惣社	集合住宅	4.60	里山辺下原遺跡	該当	あり	古墳時代土器片	工事立会	5月8日
13	民間	浅間温泉1	集合住宅	7.50	柳田遺跡	該当	あり	縄文土器片	工事立会	5月13・14日
14	民間	横田2	個人住宅	4.00	横田遺跡	該当	なし			5月15日
15	民間	芳野	葬儀場	19.32	出川南遺跡	該当	なし			5月20・21日
16	民間	北深志3	個人住宅	12.00	松本城下町跡、堂町遺跡	該当	なし			6月3・4日
17	民間	笹賀	建売住宅	6.00	神戸遺跡	該当	なし			6月9・10日
18	民間	岡田下岡田	保育所計画	27.70	岡田宮の前遺跡	該当	なし			6月11・12日
19	民間	寿北5	個人住宅	3.60	瀬黒遺跡	該当	なし			7月7・8日
20	民間	島内	宅地造成	16.20	島内八幡原遺跡	近接	なし			7月14・15日
21	民間	沢村1	賃貸住宅	10.90	沢村遺跡	該当	なし			7月16・17日
22	松本市	沢村1	防火水槽	1.20	沢村遺跡	該当	なし			7月18日
23	民間	島立	宅地造成	13.16	新村・島立条里的遺構、南栗遺跡	該当	あり	縄文土器片、黒曜石、大珠	保存可能	8月21・22日
24	民間	大村	個人住宅	5.70	大村古屋敷遺跡	近接	あり	推定住居跡、須恵器片、土師器片	記録保存	9月1日
25	民間	大村	宅地造成	15.28	大村遺跡、大輔原遺跡	該当	あり	磨滅縄文土器片	工事立会	9月10-12日
26	松本市	島内	市道改良	6.50	島内山田遺跡、北部古窯址群	近接	なし			9月18-22日
27	民間	岡田下岡田	集合住宅	6.60	岡田西裏遺跡	該当	なし			9月29日
28	民間	南松本2	工場	16.00	出川西遺跡	該当	あり	焼土、古墳時代土器片	記録保存	9月29日・10月16-24日
29	民間	里山辺	宅地造成	9.30	里山辺下原遺跡	該当	なし			10月16-17日
30	民間	島内	工場敷地造成	6.00	島内南中遺跡	該当	なし			10月22日
31	松本市	中山	中山霊園管理事務所改築	6.6	中山古墳群、西越遺跡	該当	なし			10月27・28日
32	民間	笹賀	宅地造成	18.9	神戸遺跡	該当	なし			10月29・30日
33	民間	惣社	戸建・長屋住宅	10.0	宮北遺跡	近接	なし			11月27日
34	民間	新村	店舗	13.0	新村・島立条里的遺構	該当	あり	推定住居跡、土師器片	記録保存	12月9-12日
35	松本市	梓川梓	給食センター	17.0	(遺跡未確認地域)		なし			12月15・16日
36	民間	城東2	店舗計画	8.8	松本城下町跡	該当	あり	焼土層、陶磁器片	計画未定、和泉町	12月22日-1月6日

旧石器時代		今回報告の 遺跡年代	松本市内の 遺跡や史跡	長野県や全国の 遺跡や史跡
	16000 年前			
縄文時代	5000 年前	床尾中央遺跡 (塩尻市)	川西開田遺跡 (神林) 波田下原遺跡 (波田)	縄文のビーナス (茅野市) 平出遺跡 (塩尻市)
	前 900		麻神遺跡 (波田) エリ穴遺跡 (内田)	仮面の女神 (茅野市)
	前 300		針塚遺跡 (里山辺)	
弥生時代	0	出川南遺跡 平田北遺跡	境窪遺跡 (神林) 百瀬遺跡 (寿) 県町遺跡 (県)	吉野ヶ里遺跡 (佐賀県) 柴宮遺跡の銅鐸 (塩尻市) 纏向遺跡 (奈良県)
	200			
	300	床尾中央遺跡 (塩尻市)	弘法山古墳 (並柳・神田) 中山 36 号古墳 (神田) 高宮遺跡 (高宮) 針塚古墳 (里山辺) 平田里古墳 (双葉) 中山古墳群 (中山) 束間行宮	箸墓古墳 (奈良県) 森將軍塚古墳 (千曲市)
古墳時代	600			法隆寺 (奈良県)
	710		小池遺跡 (寿) 新村遺跡 (新村)	東大寺 (奈良県) 信濃国分寺 (上田市)
奈良時代	794		下神遺跡 (神林) 埴原の牧 和田太子堂遺跡 (和田) 県町遺跡 (県) 三間沢川左岸遺跡 (和田) 信濃国府 平田本郷遺跡 (平田西) 海岸寺遺跡 (入山辺) 海岸寺経塚 (入山辺)	吉田川西遺跡 (塩尻市) 平泉 (岩手県)
平安時代	12 世紀末	床尾中央遺跡 (塩尻市)		
鎌倉時代				
	1334			
建武の新政	1338		殿村遺跡 (四賀) 井川城址 (井川城) 虚空蔵山城跡 (四賀)	
南北朝時代				
室町時代			林城址 (里山辺) 松本城天守 松本城跡 松本城下町跡	安土城 (滋賀県) 姫路城 (兵庫県)
戦国時代				
安土桃山時代	1603	松本城外堀跡南外堀		
江戸時代				
	1868			
明治・大正				
昭和時代				

平田北遺跡 第8次発掘調査

－奈良井川の氾濫とともに栄えた古代集落－

松本市文化観光部 文化財課 原田 健司

1 調査の概要

- (1) 遺跡の所在：松本市芳野
- (2) 調査目的：民間開発に伴う緊急発掘調査
- (3) 調査期間：令和7年10月6日～令和8年1月23日
- (4) 調査面積：約490㎡
- (5) 主な遺構：竪穴住居跡（奈良・平安）、柱穴跡（中世）
- (6) 主な遺物：須恵器杯蓋・杯身のセット（奈良）、ミニチュア土器（奈良）



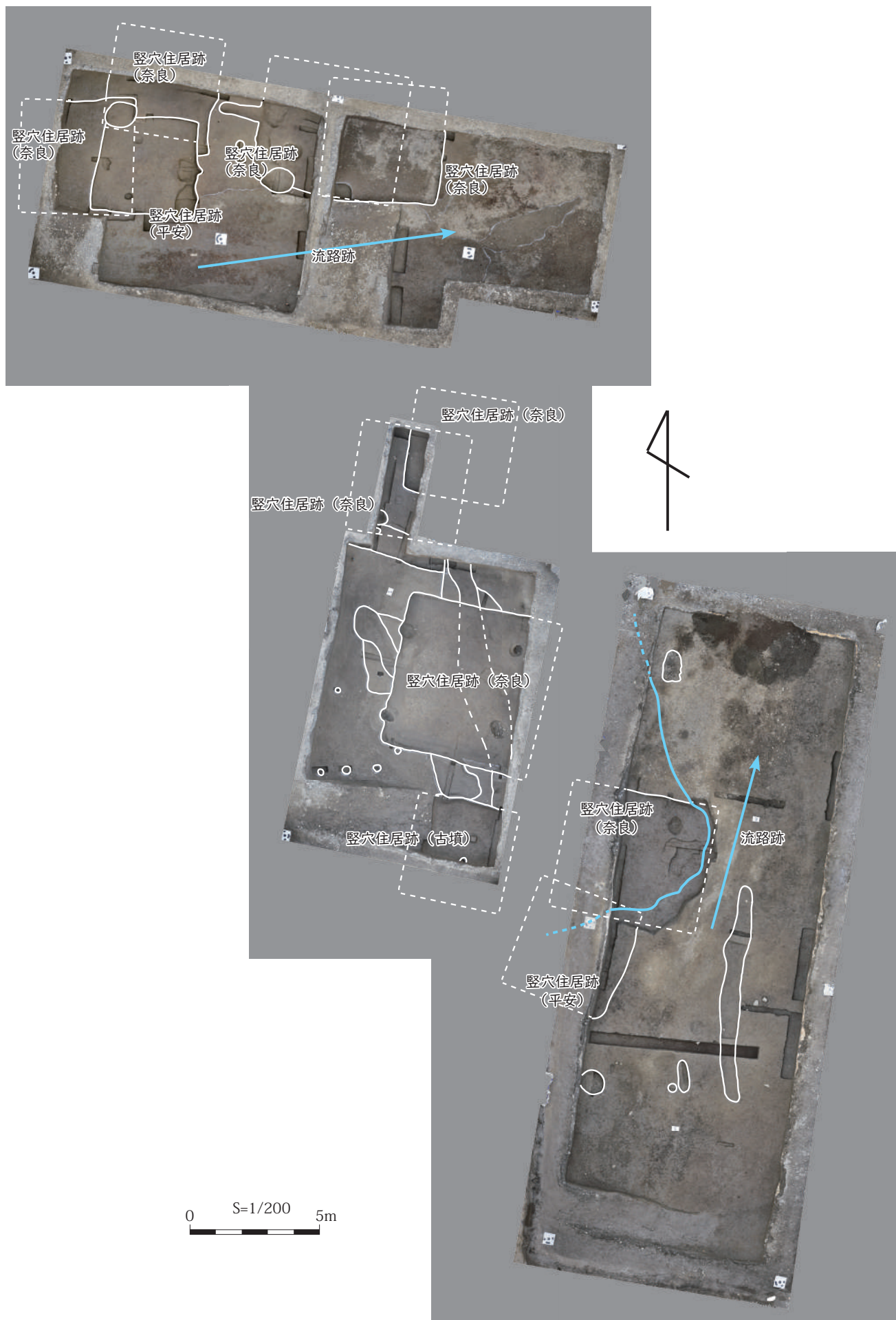
2 遺跡の概要

平田北遺跡は、松本市の南部、芳野地区に位置します。平成4年度に初めての立会調査、平成6年度に初めての発掘調査が行われました。田川と奈良井川に挟まれたこの地域は、出川南遺跡に代表される古墳時代末期から平安時代前期の大集落の存在が確認でき、当遺跡もその一部を担う集落であると考えられています。

これまでの調査で、7世紀～9世紀（古墳時代末期～平安時代前期）の遺構・遺物が多く確認されています。また、第6次調査では弥生土器や黒曜石製石器等の紀元前1世紀頃（弥生時代）の遺物や、第5・7次調査では中世の遺構・遺物もみつかっています。



調査区と遺構の位置（合成写真）



3 調査成果

(1) 遺構

- ア 古墳時代後期 竪穴住居跡 1 軒
- イ 奈良時代 竪穴住居跡 8 軒
- ウ 平安時代前期 竪穴住居跡 2 軒、溝 4 条
- エ 中 世 土坑 13 基
- オ 時期不明 土坑 14 基（多くが奈良～平安時代か）

今回の調査では、古墳時代後期から中世までの幅広い時期の遺構を確認しました。特に、奈良時代と平安時代前期の遺構・遺物が多くみつかっています。奈良時代の竪穴住居跡のうち 1 軒は、一辺約 6.5m を測り、これまでの調査において最大規模のものと考えられ、奈良時代の中心的な建物であった可能性があります。長い煙道のカマドをもつ奈良時代の竪穴住居跡もみつかっています。中世の土坑は、一列に並ぶものがあるため、掘立柱建物や柵等の柱穴跡と考えられます。今回の調査地の西側で実施した第 5 次調査では、柱穴跡が多数みつかっています。



一辺約 6.5m を測る大型の竪穴住居跡
(奈良時代、右が北)

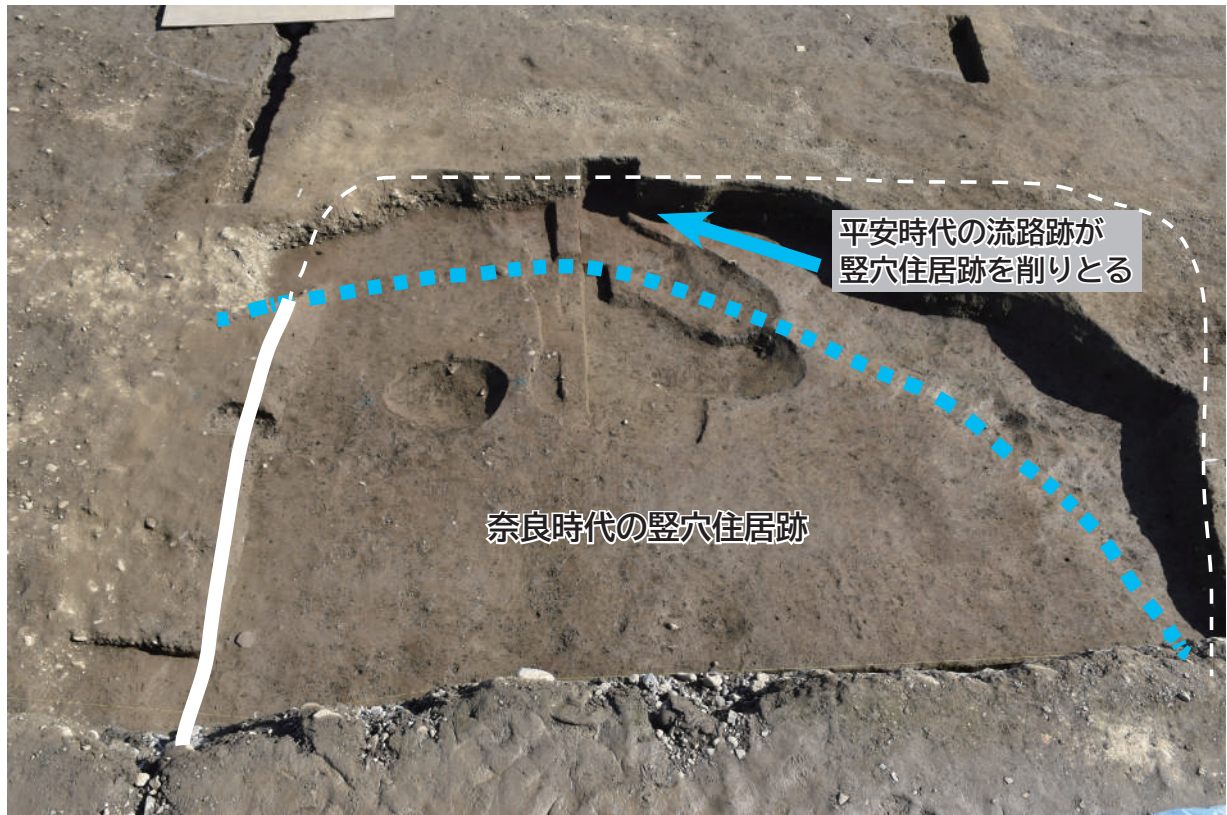


長い煙道のカマドをもつ竪穴住居跡（奈良時代、右が北）



一列に等間隔に並ぶ柱穴跡
(中世、右が北)

今回の調査では、平安時代頃に調査地へ流れ込んだ流路（奈良井川の氾濫^{はんらん}によるものか）が、奈良時代の集落の一部を削り取り、その後氾濫が落ち着くとまた同じ場所に集落を築いた様子が見えてきました。



平安時代の流路に削られた奈良時代の竪穴住居跡

(2) 遺物

ア 古墳時代後期

土器（土師器壺^{はじきつぼ}など）、金属製品（刀子^{とうす}、釘など）

イ 奈良時代

土器（須恵器杯^{すえきつき}・椀^{わん}・甕^{かめ}など、黒色土器杯^{こくしよく}・椀、土師器ミニチュア土器・甕など）、石製品（砥石）、金属製品（釘）

ウ 平安時代前期

土器（須恵器甕、土師器杯^{すえきつき}・甕、灰釉陶器碗^{かいゆう}など）、石製品（砥石）、金属製品（釘）

エ 中世

土師質土器（皿など）、陶磁器（輸入磁器）

古墳時代後期と中世の遺物は、遺構の数が少なかったため、限定的な量の遺物しかみつかりませんでしたが、奈良時代及び平安時代前半の遺物は豊富に確認できました。奈良時代の遺物では、須恵器製の杯身と杯蓋のセットや、ミニチュア土器（手づくねでつくった小形の土器）、武蔵型甕（武蔵国周辺で見られる薄手の甕）など目を引く遺物が出土しました。平安時代の遺物では、土師器の杯や灰釉陶器の碗など、主に9世紀後半のものがみられました。



竪穴住居跡から出土したミニチュア土器
(奈良時代)



【参考写真】 小型壺
(松本市出川南遺跡第 21 次出土)



底が丸くつくられた土師器の壺
(古墳時代時代末)

【ミニチュア土器とは？】

手づくねでつくられた小形の土器のことで、用途はよくわかっていませんが、祭具や玩具（調理具を模したものが多いため）などと考えられています。



土坑から出土した須恵器の杯蓋と杯身のセット（奈良時代）

【武蔵型甕とは？】

奈良時代に主に東京都・埼玉県・群馬県を中心に一部の甲信越地域を含めた範囲に分布する、非常に薄くつくられた土師器の甕です。長野県では特に佐久市周辺で多く出土します。

※引用文献：滝澤誠 2024 「関東地方における武蔵型甕の様相」『研究紀要』第 38 号 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



出土した武蔵型甕の破片



【参考写真】 武蔵型甕（松本市下神遺跡第 1 次出土）



出川南遺跡 第30次発掘調査

－火のもとにご用心！火事で焼けた古代住居跡を発見－

松本市文化観光部 文化財課 足立 とも与



1 調査の概要

- (1) 遺跡の所在：松本市芳野
- (2) 調査目的：(仮称)松本市役所保健所庁舎建設に伴う緊急発掘調査
- (3) 調査期間：令和7年8月1日～継続中
- (4) 調査面積：約1079.3㎡
- (5) 主な遺構：竪穴住居跡（古墳時代後期～平安時代前期）、土坑、溝
- (6) 主な遺物：土師器（甕）、須恵器（杯・平瓶）、石製品（提碁）、鉄製品（刀子）など



2 遺跡の概要

出川南遺跡は、南松本駅の南西一帯に広がる大規模な遺跡で、これまでの発掘調査では弥生時代から中世の遺構・遺物がみつかっています。長期間にわたって利用されてきたこの遺跡では、大きく分けて①弥生時代後期～古墳時代前期、②古墳時代後期、③平安時代前期、④平安時代後期の4時期の集落が発見されています。とくに古墳時代後期には、100軒を超える住居跡がみつかり、大きな集落であったことがわかっています。また遺跡内には、松本市では珍しい埴輪を持つ古墳群である、平田里古墳群も分布しています。

遺跡の周辺は田川と奈良井川に挟まれた立地で、長きにわたって土地が利用されてきた背景として、豊かな水資源があったようです。一方で、かつては遺跡の中を奈良井川の分流が流れていたこともわかっており、これまでの調査で砂礫が遺跡内に流れ込んだ様子がたびたび確認されています。中世になると、河川の変動によって遺跡は水辺から遠ざかり、それに伴って土地の利用も低調になっていったようです。

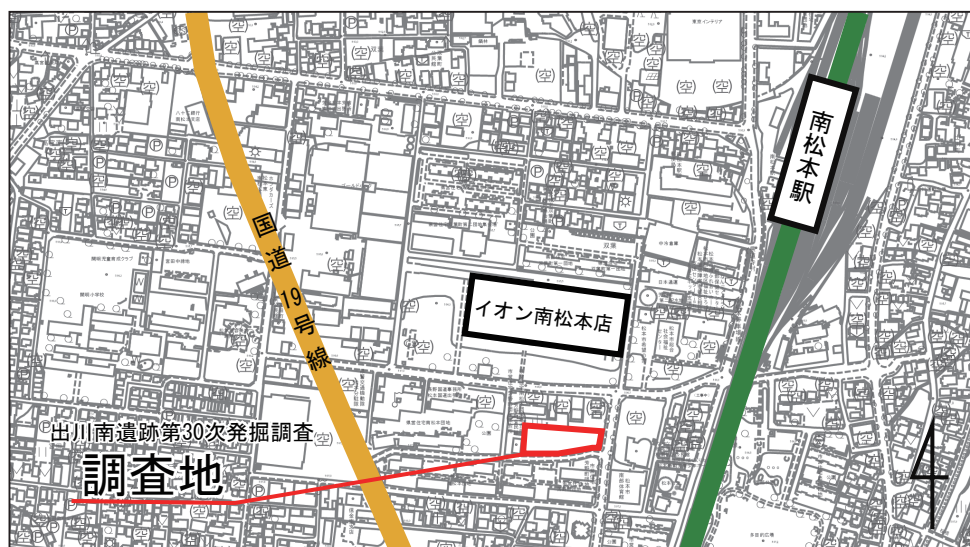


図1 出川南遺跡
第30次発掘調査
位置図

2 調査成果

(1) 遺構

調査対象地は東西に細長い形をしており、東西に調査区を分けています。今年度は西区を中心に調査を行いました。残念ながら、かつて建っていた建物の基礎によって調査区の中央部分は破壊されていましたが、調査区の端では多数の遺構が発見されました。

今回の調査では、竪穴住居跡 12 軒、土坑 6 基、溝 1 条が発見されています。古墳時代後期と平安時代前期の集落が、場所を変えながら営まれていた様子が確認されました。古墳時代後期の竪穴住居跡のなかには、一辺約 7m の大形住居跡や、火災にあった焼失住居跡といった特徴的な遺構がみられました。一方、調査区の東側には砂礫層が広がっており、奈良井川や田川の河川変動の影響下にあったことがうかがえます。

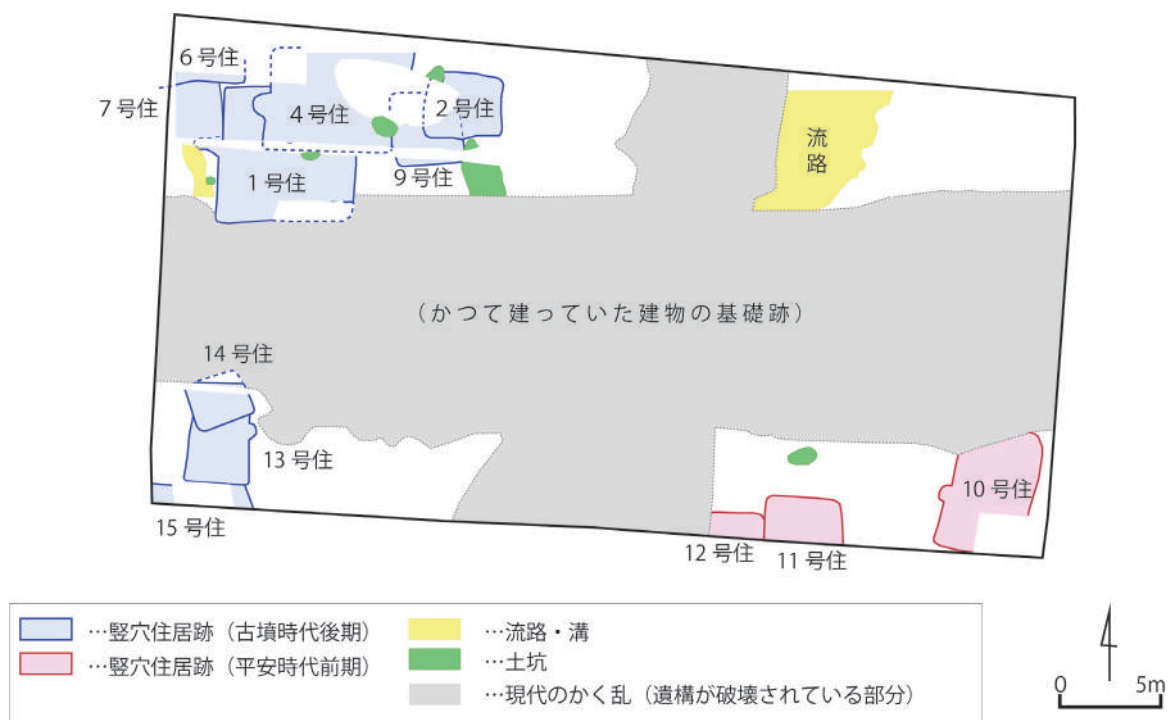


図2 出川南遺跡第30次発掘調査（西区）全体図

【大型の竪穴住居跡 1号住居跡（古墳時代後期）】

西区の西側では、古墳時代後期の竪穴住居跡が密集して発見されました。1号住居跡はその中でも大型の住居で、一辺約 7m の大きさを誇ります。一部は別の住居跡によって壊されていたものの、屋根材を支える柱穴や、壁材を支える周溝が良好な状態で検出されました。住居の西壁には、石を構築材として使用した立派なカマドが設けられていました。カマドの焚口はしっかりと焼けており、高頻度で使用されていたとみられます。



図3 1号住居跡カマド（焚口から奥を撮影）

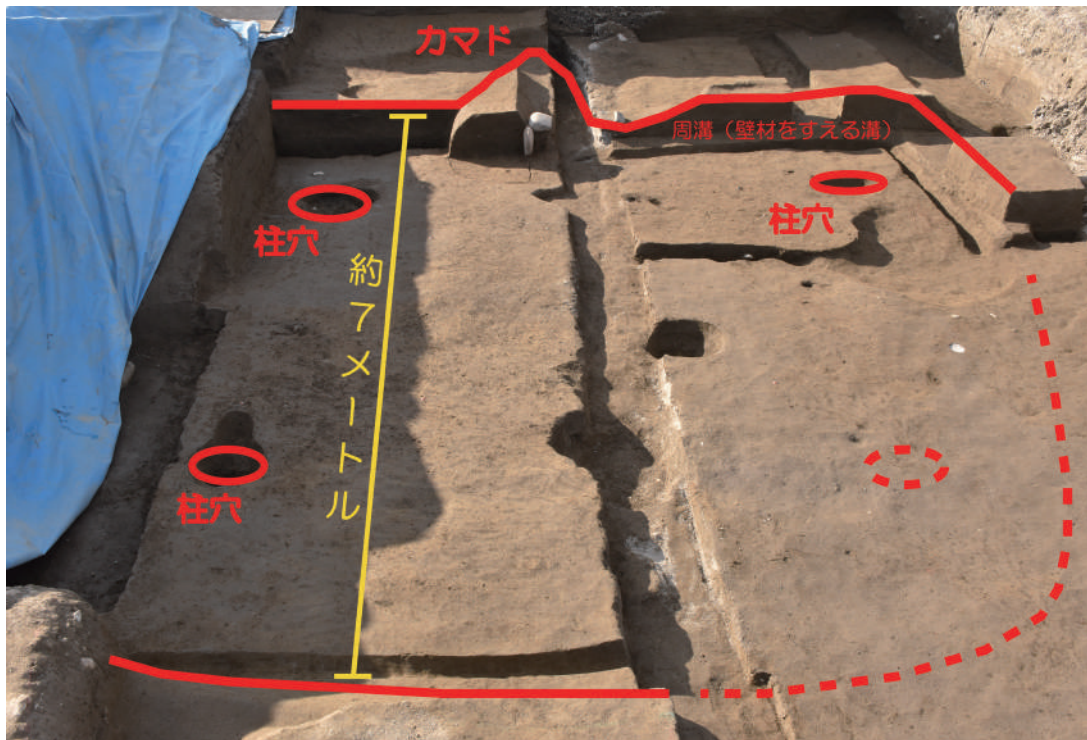


図4 1号住居跡 床面

【火事にあった焼失住居跡 4号住居跡（古墳時代後期）】

4号住居跡は、床面の上に炭や焼土のかたまりが多量に堆積している様子が確認されたことから、火災を受けた「焼失住居跡」と考えられます。一面に広がった炭や焼土は、草葺き屋根などが燃え落ちたものとみられます。

また、まるで床面に上に置かれたままのような状態で、完形の須恵器平瓶や、まとめて置かれたままの「こも編み石（敷物などを編むのに使った細長い石）」などの遺物が多数出土しました。火災の際に取り残されたのかもしれませんが。

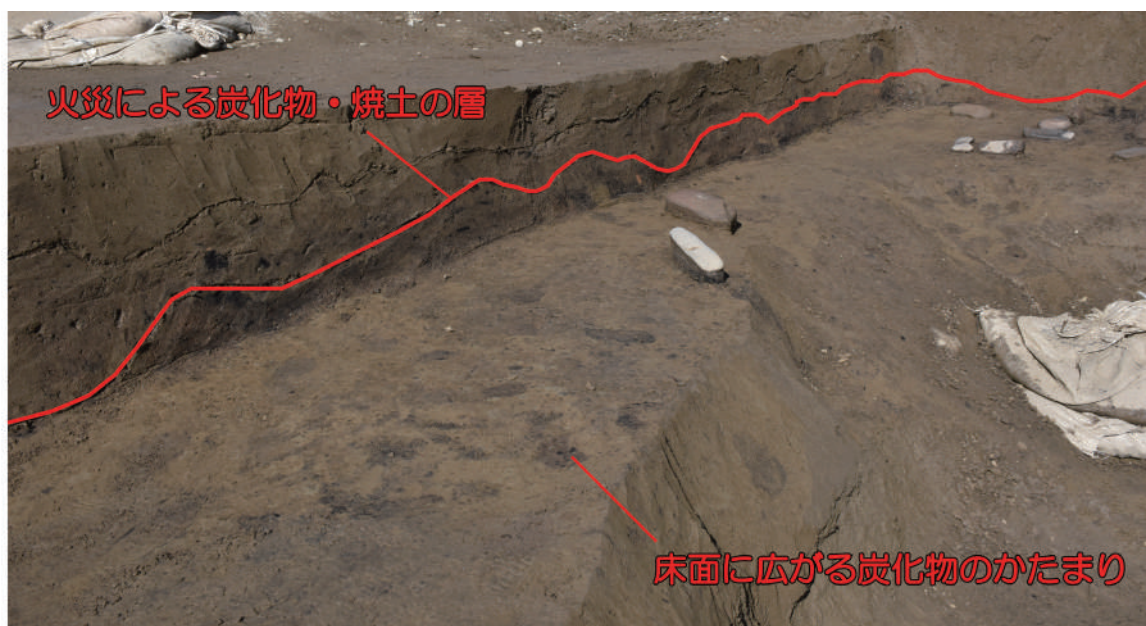


図5 4号住居跡 床面の上に広がる炭と焼土

【特徴的なカマドの竪穴住居跡 10号住居跡（平安時代前期）】

西区の東側では、平安時代前期の竪穴住居跡が複数発見されました。10号住居跡は、河川の氾濫^{はんらん}によって堆積した砂礫層を掘り込んで作られた住居跡で、西壁にカマドが設けられていました。

カマドには構築材として石が使用されることがよくありますが、このカマドではひとつの石をふたつに割り、それぞれをカマドの袖石^{そでいし}として据え付けている様子が確認されました。少し珍しい石材の使い方です。



図6 特徴ある石材使いの10号住居跡カマド

(2) 主な遺物

【須恵器平瓶^{へいへい}（古墳時代後期 4号住居跡）】

「平瓶」とは、古墳時代後期から平安時代に使用された、液体を入れるための器の一種です。この平瓶は、火災にあった4号住居の床面のすぐ上から出土したものです。ほとんど欠けていない完形で出土しました。



図7 須恵器平瓶

【刻書須恵器杯（古墳時代後期 4号住居跡）】

4号住居跡の炭混じりの層の中から、須恵器の杯がふたつに割れた状態で出土しました。内面の底には「大」の文字が刻まれています。



図8 「大」の刻書のある須恵器杯

【提砥^{さげと}（古墳時代後期 4号住居跡）】

4号住居跡の床面近くから出土しました。普通の砥石を小さく割って加工したのですが、実は穴が貫通していない「作りかけ（未成品）」です。穴を開けている途中で火災にあい、そのまま取り残されたのでしょうか。



図9 作りかけの提砥

3 令和7年度の調査

松本城南・西外堀復元事業に伴い、復元に必要な考古学的情報を収集するための試掘調査を令和3年度より実施しています。これまでの調査から南外堀の二の丸側は土塁であり、その水際に設置された木杭列（写真1）が、また南隅櫓・古山寺御殿周辺では腰巻石垣（写真2）が出土しました。三の丸側では石垣（写真3）を確認しています。そのほかに南外堀南西部に設置された水門に関わる遺構（写真4）などが出土しています。

今年度の調査は、これまでの調査結果を踏まえ、南外堀の平面・断面形状、三の丸側石垣の構造などを確認するため行ったものです。合計4か所の調査区を設定し、発掘調査を行いました（図1・表1）。



写真1 南外堀二の丸側 木杭列（令和3年度）



写真2 南外堀東側 腰巻石垣（令和6年度）



写真3 南外堀三の丸側 石垣（令和4年度）



写真4 南外堀三の丸側 水門関係遺構（令和5年度）

表1 令和7年度 南外堀跡 調査箇所

調査区名	南・西 外堀	調査区の規模 (m)		目的
		東西	南北	
A 拡張	南	5	5	・ 南外堀三の丸側石垣の構造を確認
V	南	30	20	・ 南外堀断面形状の確認 ・ 南西隅櫓周辺の南外堀平面形状の確認 ・ R4～6年度調査で検出した堀底が浅い範囲の確認 ・ R4～6年度調査で検出した丸太材の確認
W	南	6	5	・ 南外堀断面形状の確認 ・ 南外堀西側の一段深くなる堀底裾部の確認
X	南	2	5	・ 南外堀用地内建物基礎深度確認

4 発掘調査の成果

(1) 南外堀跡 A 拡張トレンチ ～三の丸側石垣の出土～

南外堀跡三の丸側では過去 6 か所で石垣が出土しています。その中で最も残存状態の良い平成 9 年度に実施した A トレンチを拡張し、石垣の構造を確認する調査を実施しました。

石垣は全体に変形がみられ（^{はら}孕み出し）、石垣の中段あたりが最も前面にとび出しており、中央では崩落しています。石垣の高さは 1.2m 前後で、小口面の長さ 35 ～ 50 cm、高さ 15 ～ 35 cm の自然石を 5 ～ 7 段布積みしており、中には表面を加工した痕のある築石もみられます（写真 5）。築石の全てが閃緑斑岩（^{せんりょくはんがん}）という石材が使われていました。

基盤の砂礫層に根石（石垣最下の石）を直接のせており、^{どうぎ}胴木などは確認されていません。根石の前面では直径 5 cm 程度の丸太杭が 3 本出土し、これは地盤を強化するために打ち込まれたものと考えられます。石垣背面と崩落部からは直径 15 cm 前後の円礫（^{れき}）による裏込石が検出されました。裏込石の多くは円礫ですが、いくつか角礫が混ざります。これは築石を加工する際に出た剥片と考えられます。

堀底は根石前面において地表下 1.7m（標高 586.4m）で検出され、北に緩い傾斜を持った平坦な面であることを確認しました。



写真 5 A 拡張トレンチ 石垣

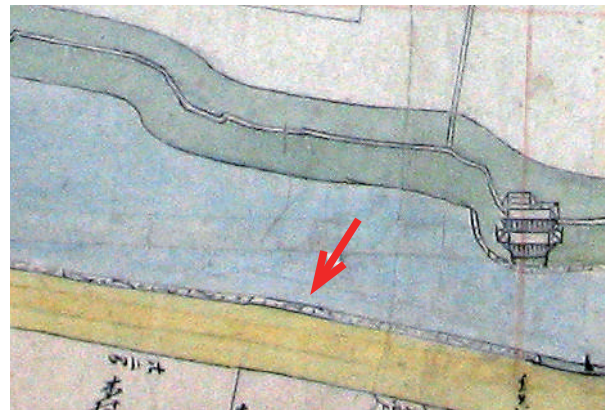


図 2 石垣 享保絵図より

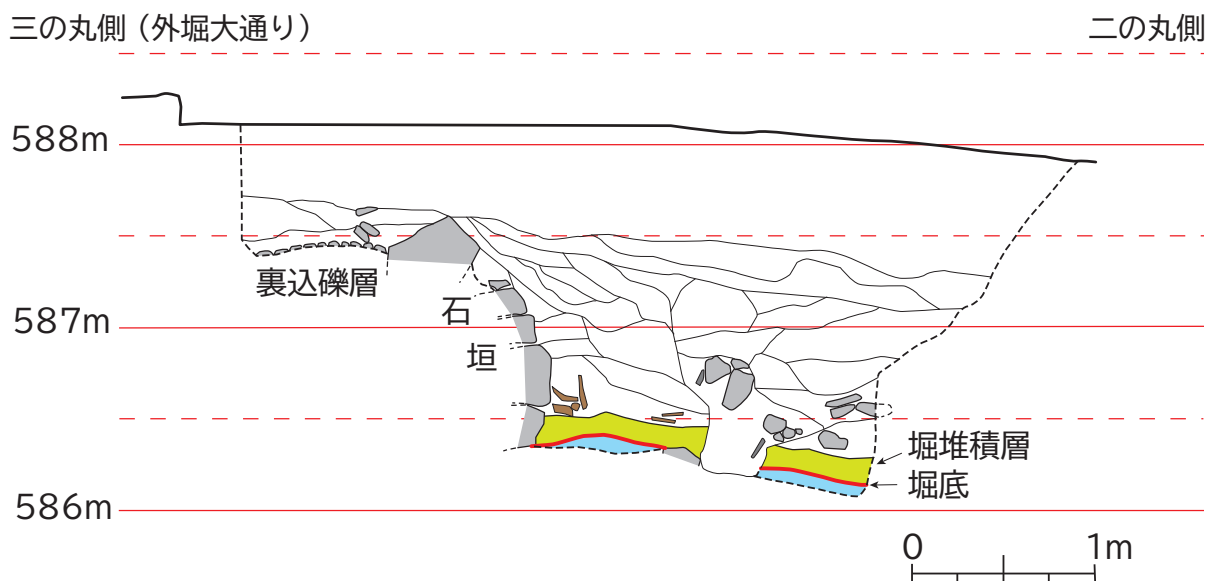


図 3 A 拡張トレンチ 三の丸側石垣及び堀底の断面（トレンチ西壁）

(2) V トレンチ ～南外堀の平面・断面形状～

令和 4、5 年度に引き続き、南外堀で 3 度目の横断面を確認するための調査を行いました。今年度は調査の都合上、横断面の 3 分の 2 程度の範囲の調査となりました。A 拡張トレンチの成果や過去調査の成果を合わせることで、南外堀の断面形状を把握することができます。

大きなトレンチの中に小さなトレンチ（サブトレンチ）を設けて 3 本の横断面を調査しました。西側に設定したサブトレンチでは二の丸側の水際に設置されていた木杭列を含む堀底の形状、中央と東側サブトレンチでは昨年度出土した大きな丸太材を含む堀底の形状を確認しました（図 4）。

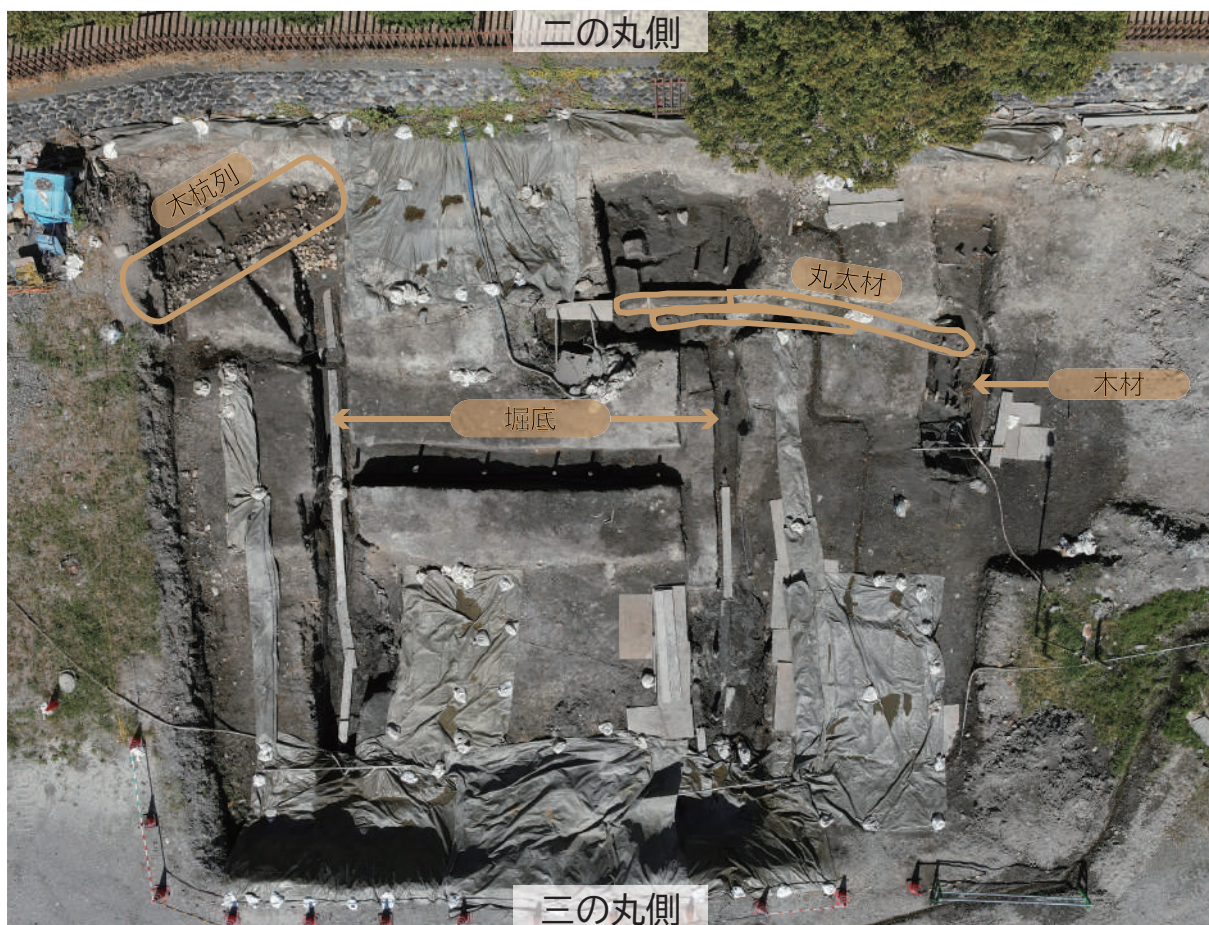


図 4 V トレンチ 空撮写真に加筆



写真 6 南外堀 V トレンチ 木杭列と礫

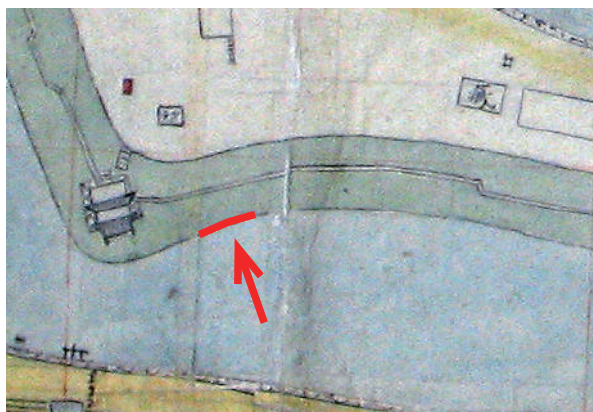


図 5 南外堀南西隅櫓周辺 二の丸の張出し

西側サブトレンチでは、二の丸側の地表下0.5m（標高 586.2m）において、南西から北東の方向に並ぶ木杭列が出土しました（写真6）。二の丸の南西隅櫓周辺が堀側に張り出す部分と一致する位置で木杭列が出土しています（図4・5）。木杭列は松本城の堀平面形状を把握する重要な目印でもあります。

木杭列は傾斜の緩やかなテラス状平坦面に打たれています。①二の丸側に設置された数が少なく径の大きな円形断面をもつ丸太杭、②堀側に設置された数が多く径の小さな台形断面をもつみかん割杭の2種に大きく分類できます。①丸太杭は土塁際あるいは土塁内に設置された土留めの杭、②みかん割杭は水際に設置された護岸兼防御の杭であると考えられます（図6）。木杭列の周辺、特に堀側からは直径15cm程度の円礫が多数出土しました。これらの礫は堀底に敷かれていた可能性があります（写真6）。

堀底の形状は大きく2段の平坦面を持つ形状であることがわかりました（写真7）。木杭列が設置されたテラス状平坦面から礫を伴う斜面で落込み1段目（標高 585m）、木杭列から南へ15m程でさらに2段目へ落込む（標高 584m）ことを確認しました（図7）。

堀底以下の深い位置から自然堆積層の砂が吹きあがった「噴砂^{ふんさ}」を確認しました（写真8）。噴砂は地震などが原因で起こる現象で、今回の調査区内から多数確認されています。



図6 南外堀Vトレンチ 木杭列 分類



写真7 南外堀Vトレンチ 堀底



写真8 南外堀Vトレンチ 噴砂

三の丸側（外堀大通り）

二の丸側

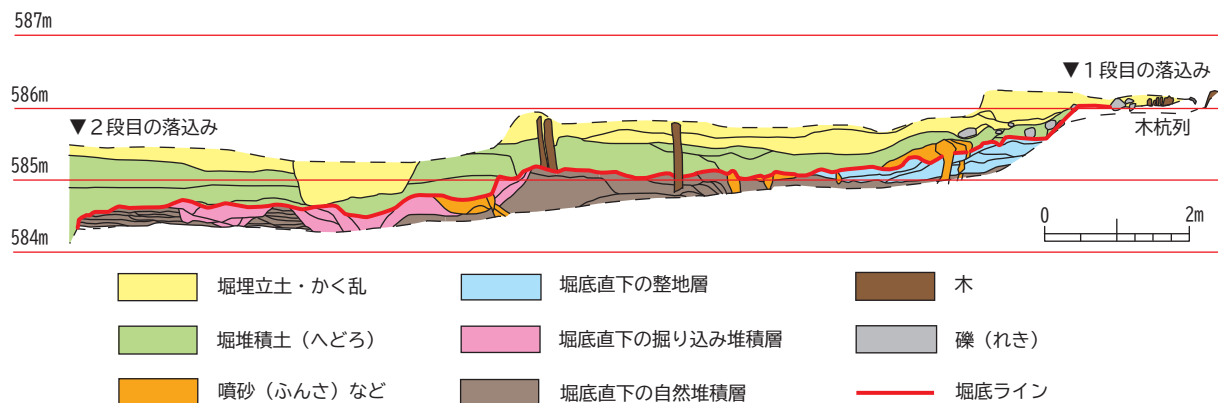


図7 Vトレンチ 西側サブトレンチにおける堀底の断面図

中央・東側サブトレンチでは、二の丸側地表下 1.3m（標高 585.3m）にて、昨年度出土した大きな丸太材 3 本を再確認しました（写真 9）。特徴としては貫通した穴が 1 本あたり 1 個あけられており、運搬用の紐^{ひも}をかける穴と考えられます。穴、切断面以外に加工痕はなく樹皮も一部残っています。また、丸太材を押さえるよう堀側から斜めに杭を打ち、浮かないように固定していることを確認しました。

丸太材について樹種の特定と放射性炭素による年代測定を行いました。樹種はエノキ属であることがわかりました。エノキ属は河畔などに生育する落葉高木^{かほん}です。令和 5 年度の発掘調査で出土した切株もエノキ属であり、周辺に生息していたことが考えられます。年代測定からは、丸太材 3 本と丸太材を押さえる杭の 4 点が 1550 ～ 1630 年の年代であることがわかりました。中央値は 1590 年前後であり、築城期と年代が重なることがわかりました。

堀底の断面は、西側サブトレンチと同様に二段の堀底を持つ断面形状を確認しました（図 8）。1 段目は地表下 1.3 m（標高 585.3 m）、丸太材から 12 m 南でさらに深くなります（標高 584.2 m）。丸太材はその平坦な堀底を掘り込み、大部分が堀底の高さと丸太材の上端が揃う高さに設置されています。丸太材の有無に関わらず南外堀の西側では二段の堀底を持つ堀の断面形状を確認しました。

堀底基盤層は層が歪み、一部では断層を確認しました（写真 10）。層の歪みの原因としては、地震などの大きな力を受けたことなど、様々な原因が考えられます。この層の歪みや断層、西側サブトレンチの噴砂や A 拡張トレンチの石垣の変形など南外堀跡には多くの地震痕跡が残っていることがわかりました。



写真 9 R6 撮影 南外堀 エノキ属丸太材

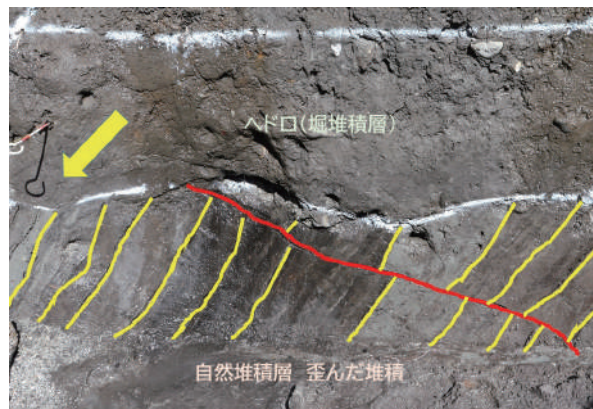


写真 10 南外堀 V トレンチ 歪んだ層と断層

三の丸側（外堀大通り）

二の丸側

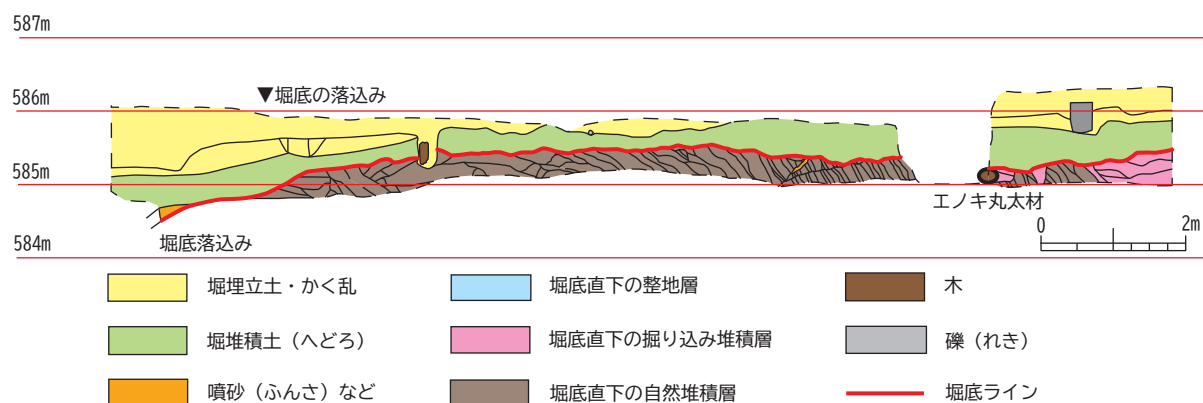


図 8 V トレンチ 中央サブトレンチにおける堀底の断面図

(3) Wトレンチ ～堀造成の経過～

Vトレンチで確認された二段の平坦面をもつ形状の堀底が、東へどのように延長しているかを確認する目的で調査しました（写真11）。調査の結果、二の丸側から続く平坦な1段目の堀底から、きれいな縞模様の自然堆積層を掘込んで三の丸側へ2段目を深くしていることがわかりました（図9 赤線が堀底ライン）。一方で、二の丸側の堀底以下にも縞模様の自然堆積層を掘り込んでいる痕跡を確認しました（図9 白線）。この掘り込みは松本城築城以前の溝と考えられます。南外堀の造成時には、この溝を埋めて平らに造成し、さらに三の丸側を掘り込んでいることがわかります。堀造成の過程が確認できる貴重な成果となりました。



写真11 南外堀Wトレンチ 全景

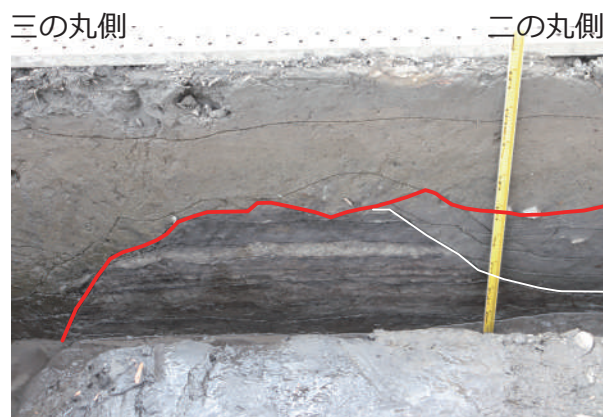


図9 南外堀Wトレンチ 西壁

(4) 遺物 ～中世から近世まで～

近世の遺物として瓦が多く出土しました。戸田家の離れ六つ星や水野家の丸に立沢瀉^{たちおもだか}の軒丸瓦や刻印入りの瓦も出土しています（写真12）。二の丸側の木杭列周辺に集中して出土することから、土塁の上にあった土堀に乗っていた瓦であると考えられます。

今年度は内耳鍋^{ないじなべ}や灰釉陶器など中世以前の遺物も出土しています。特徴的なものとしては、堀底基盤層から大窯^{おおがま}1段階（1480～1530年頃）に分類される瀬戸産陶器皿片が出土しました（写真13）。平成14年度に実施した、小笠原氏の本拠地林城の山麓拠点と推定される遺跡である林山腰遺跡第2次調査で出土したものとよく似た図柄のスタンプ文がみられます。



写真12 南外堀Vトレンチ出土
離れ六つ星 軒丸瓦

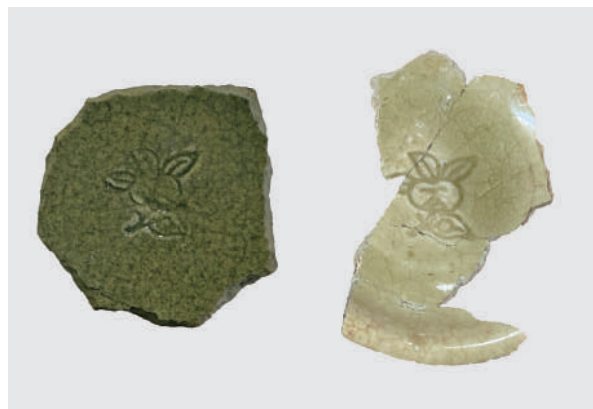


写真13 瀬戸産端反皿 大窯1段階
左：南外堀Vトレンチ出土
右：林山腰遺跡第2次調査出土

床尾中央遺跡 第2次発掘調査（塩尻市）

報告④

－縄文・古墳・平安時代の大集落を発見！－

塩尻市立平出博物館 館長 小松 学



1 調査の概要

- (1) 遺跡の所在：塩尻市宗賀床尾
- (2) 調査目的：住宅団地造成に伴う緊急発掘調査
- (3) 調査期間：令和7年5月13日～12月14日
- (4) 調査面積：約4,700 m²
- (5) 主な遺構：竪穴住居跡、^{うめがめ}埋甕
- (6) 主な遺物：縄文中期土器、^{つりて}釣手土器、土偶、三角^{とう}埴形土製品、勾玉

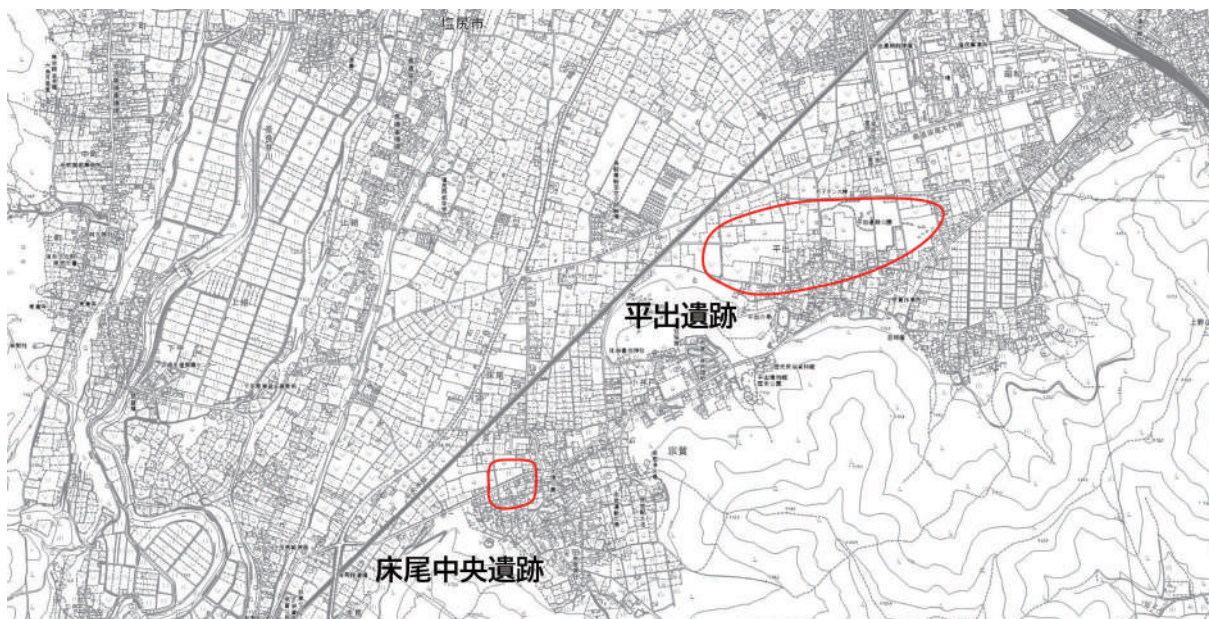


2 遺跡の概要

床尾中央遺跡は、松本平最南端の塩尻市宗賀床尾地籍に所在し、北流する奈良井川の扇状地上に立地しています。標高は755～765 mあり、遺跡からは穂高岳や常念岳など北アルプスの峰々を望むことができ、北東約1.5 kmには国の史跡である平出遺跡があります。

平成6年度には交通安全施設等整備事業に伴い発掘調査が行われています。歩道の増設ということで350 m²の細長い調査区であったにもかかわらず、縄文中期の住居跡20軒、中世の住居跡3軒などが検出され、それらとともに大量の縄文土器や石器などが出土し、非常に大きな成果をあげています。

また、今回の調査区の東側にあたる場所からは、発掘調査ではありませんが土師器杯・壺・^{つばがま}罎釜、^{ずいかそうちょうはちりょうきょう}灰釉陶器皿とともに瑞花双鳥八稜鏡など平安時代の遺物も発見されています。



遺跡の位置



年度別調査地区図

3 令和7年度の調査

(1) 遺構

ア 縄文時代の遺構 竪穴住居跡 41 軒、埋甕 24 基

イ 古墳時代の遺構 竪穴住居跡 16 軒

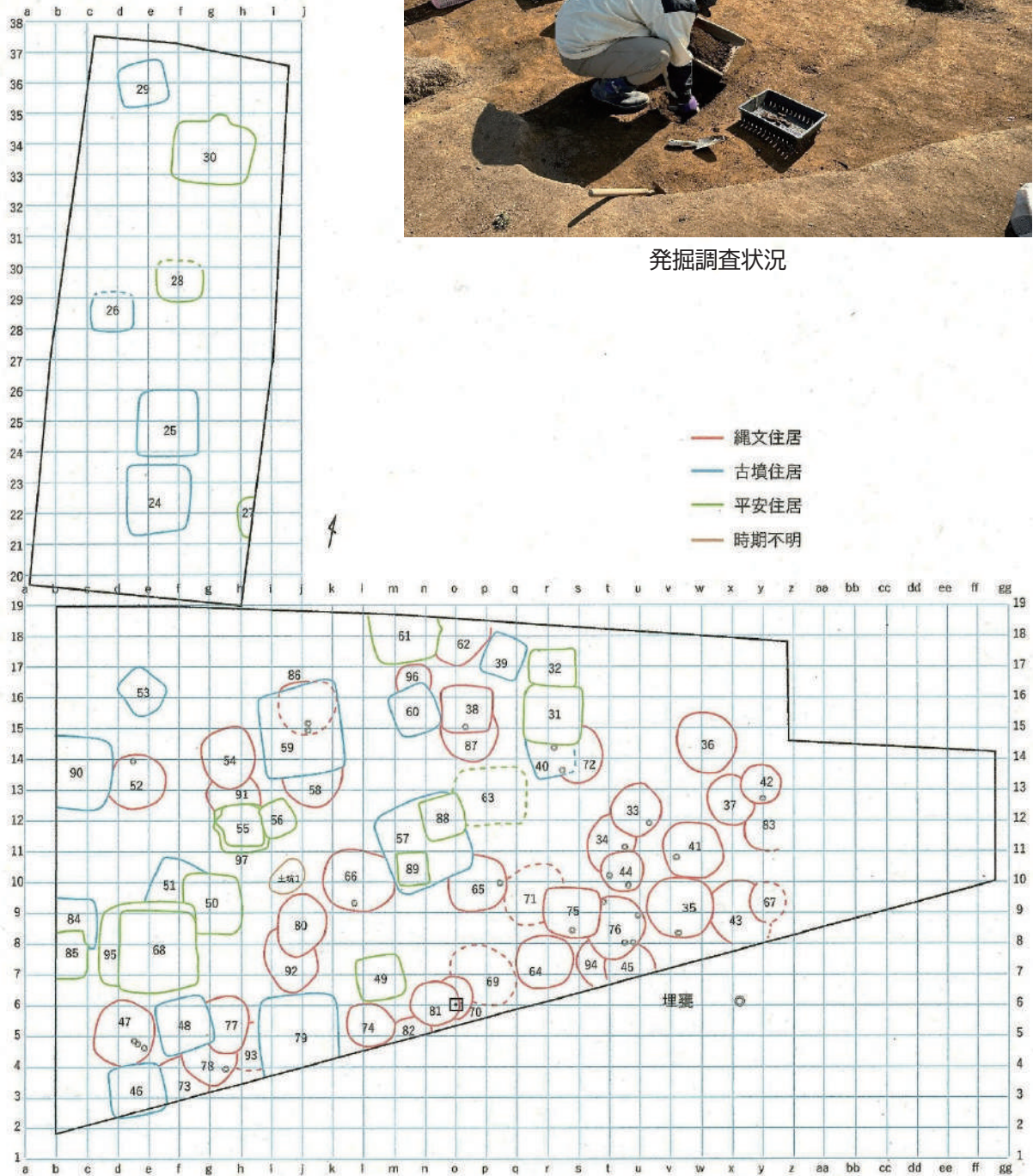
ウ 平安時代の遺構 竪穴住居跡 17 軒

今回の調査では、縄文・古墳・平安時代という3つの時代にわたる74軒の住居跡がみつかっています。最も多くの住居跡が残されていた時代が縄文時代で、41軒もの住居跡がみつかっています。これらは約5,000年前の縄文時代中期にあたるもので、特に中期後葉とよばれている時期が中心となっています。この中期後葉を中心とした時期の住居内からは、24個もの埋甕が発見されています。

古代の遺構としては、古墳時代前期16軒、平安時代後期17軒の住居跡がみつかっています。床尾中央遺跡からはこれまでに縄文時代と中世の住居跡しか発見されていませんでしたので、今回古代の住居跡が33軒も発見されるとは調査前にはまったく予想していませんでした。



発掘調査状況



床尾中央遺跡全体図



縄文中期後葉の住居（44号住）



珍しい土器敷炉（64号住）



大量の土器が出土（47号住）



大量の土器が出土（34号住）

縄文中期の住居跡の形は、円形や楕円形がほとんどですが、まれに隅丸方形のものもみられました。炉は大部分が石囲炉でしたが、^{まいようろ}埋甕炉や土器敷炉もありました。

住居の覆土中に大量の土器が廃棄されている「吹上パターン」^{ふきあげ}とよばれる出土状態がみられる住居もいくつかありました。



3個の埋甕が並んで出土（47号住）



埋甕内の土壌サンプリング



サンプリングの痕跡

床尾中央遺跡からは、16軒の住居跡から24個もの^{うめがめ}埋甕が発見されました。最も多くの埋甕があった76号住からは4個も埋甕が出土し、47号住からは3個の埋甕が一直線に並んで発見されています。

埋甕が何に使われたのかははっきりしていませんが、今回埋甕内部の土を採取し、DNA分析を行うことになっています。



古墳時代の住居と埋甕炉(24号住)

古墳時代の住居跡は16軒発見されました。形態としては方形プランが多く、住居の規模としては、直径6～7mを越すような大形のものが比較的多いように思われます。時期的には4世紀前半頃のものほとんどだったことから、カマドが設けられた住居は1軒もなく、埋甕炉や地床炉しかみられませんでした。

一方で平安時代の住居跡は17軒発見されています。時期的には平安時代の後期頃と考えられます。古墳時代の住居は重複することなく作られていましたが、平安時代の住居跡は折り重なるように作られているものもいくつかみられました。

(2) 遺物

縄文時代のものとして大量の土器が出土しています。特に出土すること自体が珍しく、出土したとしても1遺跡から1～2点しか発見されることがほとんどである釣手土器が7点以上みつまっていることは大変注目すべきことです。また、松本平でも3例目となる三角塙形土製品1点、土偶も40点以上出土しているなど、この遺跡の特異性がうかがわれます。

また、石器では、石鏃や打製石斧、磨製石斧、凹石、石皿、石棒などとともに、このあたりでは珍しい石錘などもみつかっています。また、勾玉も1点発見されています。



釣手土器 (52 号住)



三角塙形土製品 (76 号住)



勾玉 (73 号住)



石棒 (47 号住)



接合した土偶（58 号住）

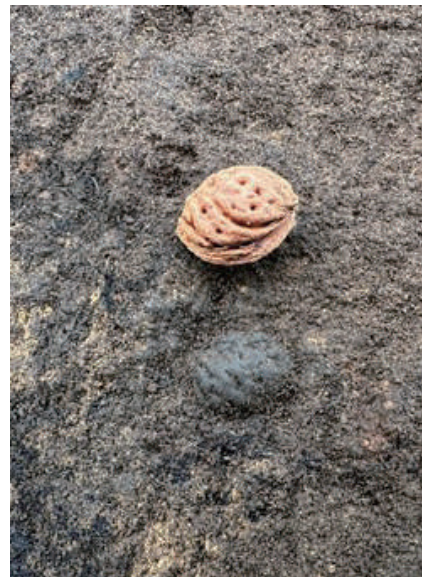


土偶の頭部（36 号住）

古代の遺物は縄文時代と比べて少なめですが、須恵器、土師器、灰釉陶器のほか、鏡の破片と考えられるものや管玉などもみつっています。古墳時代の土器として東海系の S 字甕が多数出土しており、注目されます。また、古墳時代の住居跡から炭化したモモの種がいくつもみつっており、古代の祭祀に使われた可能性が考えられます。



土師器の丸底壺（46 号住）



炭化したモモの種
（上はオハツモモの種）